

薬剤課

部門の紹介

病める患者さんのために薬学的視点から医薬品の有効性・安全性を確保することを基本姿勢とし、救急医療に対応するため24時間の勤務体制でチーム医療に貢献しています。がん化学療法では、がん薬物療法認定薬剤師・外来がん治療認定薬剤師が協働し抗がん剤の無菌調製やレジメン管理・有害事象防止の提案を行い安心・安全な化学療法を提供しています。抗菌化学療法認定薬剤師を含む課内感染チームが感染制御に携わり、高度医療(医薬品)安全推進者の認定を受けたスタッフが医療安全・医薬品安全を推進しています。DMAT(災害派遣医療チーム)の業務調整員も在籍し、災害発生時の対応も行っています。NST(栄養サポートチーム)専門療法士は薬学的見地より薬剤の処方内容を検討するとともに、輸液製剤、経腸栄養剤と薬剤との相互作用の検討を行い、患者の回復を栄養面から支援します。糖尿病、アレルギー疾患、心不全、腎臓病の各療養指導士もそれぞれの分野で活躍しています。このように当課では専門・認定薬剤師の取得を支援しています。地域の保険医療機関や保険薬局との連携を強化していきたいと考えております。

主な業務内容

■中央業務

処方監査を行い、薬剤の減量等が必要な場合は医師に疑義照会した上で調剤を行います。計数調剤管理システムや散薬監査システム、錠剤自動分包機、散薬自動分包機、散薬調剤ロボットも導入しています。注射薬はアンプルピッカーを導入し、1施用毎の払い出しを行っています。

■外来薬剤師業務

がん治療に係る説明や、吸入薬・インスリン・各種皮下注射等デバイス等の説明を行います。

■入院支援センター業務

予定入院患者さんの常用薬、副作用歴、休薬が必要な薬剤の確認などを行い、必要な説明や情報提供を行っています。

■製剤業務

市販にない製剤を医療現場からの要望により、妥当性を評価し調製しています。また、入院小児患者さんに使用されるTPN(経静脈栄養法)の輸液調製を行っています。

■治験薬調製業務

薬剤課は、院内の治験薬(試験薬)を一括して管理しており、安全かつ迅速に患者さんに投与するために、注射剤であれば無菌調製等も行っていきます。治験(臨床試験)に関わる医師、看護師、臨床試験コーディネーターらと連携して、円滑に試験が実施できるようサポートしています。IRB(Institutional Review Board)治験審査委員会に委員として参画しています。

■薬事委員会・医薬品情報業務

医薬品情報を整理し、必要な情報を迅速に提供します。また薬事委員会の事務局として医師の医薬品採用申請に応じ、医薬品の採用に係る審査を行います。電子カルテの医薬品に係るマスター管理を経営係、医事係と連携して行っています。

■病棟薬剤業務・薬剤管理指導業務

病棟の専任薬剤師が持参薬・薬物相互作用・副作用歴・アレルギー歴・喘息の既往、検査値の確認を行い、退院するまで継続して検査値、薬物有害事象の確認を継続し、処方提案を積極的に行います。医師・看護師などへの医薬品情報の提供、病棟における医薬品管理などを行っています。カンファレンスや回診にも同行しています。

■周術期管理業務

術後疼痛管理チームの一員として医師・看護師・臨床工学技士と連携し、術後患者の痛みや吐き気などの苦痛を緩和することを目的とし活動しています。

■抗がん剤等の無菌調製およびモニタリング

申請されたレジメンを審査し、登録を行い、その情報に基づき、医師の処方を監査し、各患者の状態に応じた抗がん剤の無菌調製を行います。リーフレットを用いた投与スケジュールや予測される副作用について説明し、自宅でも対応出来るように教育しています。抗がん剤投与後も継続して有害事象をモニターし支持療法を提案しています。

■治療薬物モニタリング

抗菌化学療法等、適正な薬物療法のため薬物の血中濃度から投与設計・モニタリングを行います。アミノグリコシド系薬剤等は腎臓の機能に合わせた投与量が必要とされ、MRSAに使用されるバンコマイシン等は抗菌力を発揮するためには十分な投与量が必要とされます。薬剤師は体重や腎機能に合わせた投与量の設計を実施し、医師に提案しています。

特徴・強み

薬剤課の特徴・強みとして、小児の薬物療法に注力しており、小児薬物療法認定薬剤師も在籍し、患児および保護者に対しても医薬品に関する説明や助言・教育を行っています。小児領域の薬物療法は、長期にわたるがん化学療法の管理や成長ホルモンや吸入デバイス説明、糖尿病療養指導、臨床試験への参加など多岐にわたり、成人とは異なる難しさがあります。なかでも小児のがん化学療法を専門に行える施設は全国的にも少なく、当院の特徴の一つと言えます。薬剤師が、がん化学療法に密接に関わることで患児やご家族のQOLが上がり、レジメン遂行の達成率もあがると考えられます。

成人の患者さんにも同様な手厚い病棟薬剤師業務を実践しています。退院後の薬物療法が安全に行えるように八幡薬剤師会とも密接に連携をとっており、定期的な薬薬連携会を開催しています。

薬学生の教育に力を入れており、年間最大9名の長期実務実習生(11週間/II、III、IV期)を受け入れ、薬剤師として必要な知識・技能を習得出来るよう指導・育成を行っています。

令和6年度業務実績

処方箋枚数(入院)	5,379.2枚/月
処方箋枚数(外来)	6,251.4枚/月(うち院外6,195.4枚/月)
注射処方箋件数(入院)	23,456.5枚/月
注射処方箋件数(外来)	1,814.6枚/月
抗がん剤調製件数	948件
がん患者管理指導料3算定件数	32件
連携充実加算算定件数	264件
病棟薬剤業務加算1算定件数	15,047件
薬剤管理指導算定件数	
薬剤管理指導料(325点)	6,010件
薬剤管理指導料(380点)	6,418件
退院時薬剤情報管理指導料	5,212件
麻薬管理指導加算	147件
TDM解析業務件数	114件
吸入指導件数	291件
インスリン・SMBG指導件数	55件
成長ホルモン・デバイス指導件数	2件
骨粗鬆症デバイス指導件数	24件
アトピー性皮膚炎・喘息デバイス指導件数	18件
入院支援センター面談件数	294件
薬学部実務実習生受け入れ	7名

現在のスタッフ資格認定状況

専門認定資格名	人数
認定実務実習指導薬剤師	4名
日本医療薬学会認定医療薬学専門薬剤師	1名
日本栄養治療学会認定NST専門療法士	2名
日本医療安全学会高度医薬品安全推進者	1名
日本病院薬剤師会認定がん薬物療法認定薬剤師	1名
日本臨床腫瘍薬学会認定外来がん治療認定薬剤師	2名
日本化学療法学会認定抗菌化学療法認定薬剤師	1名
日本麻酔科学会認定周術期管理チーム薬剤師	2名
小児薬物療法認定薬剤師	2名
漢方薬・生薬認定薬剤師	1名
日本災害医学会認定災害医療認定薬剤師	1名
アレルギー疾患療養指導士	2名
日本循環器学会認定心不全療養指導士	2名
腎臓病療養指導士	1名
日本糖尿病療養指導士(CDEJ)	2名
福岡県糖尿病療養指導士(LCDE)	1名
肝炎治療コーディネーター	1名
日本薬剤師研修センター認定薬剤師	10名
日本病院薬剤師会病院薬学認定薬剤師	3名
福岡県DMAT	3名
日本DMAT	1名

スタッフ紹介



薬剤課 課長
原田 桂作
はらだ けいさく